

暖地ソバ品種の生態的特性

1 暖地ソバの生態型と開花特性

古明地通孝・財津昌幸・田中滋郎(九州農業試験場)

KOMEICHI, M., M. ZAITSU and S. TANAKA: Ecological Characteristics of Buckwheat Varieties in the Warm Region of Japan.

1. Studies on Ecotypes in Relation to Flowering

我が国の中部地方以北には信濃1号、牡丹そばのような地域を代表するソバ品種があるが、暖地には広域的な代表品種が見当たらない。そこで西日本各地の在来種を収集し特性調査を実施中であるが、本報では収集在来種の生態的特性を開花特性により検討した。なお在来種の収集にあたり、関係機関各位の御協力をいただいた。深く謝意を表する。

1. 試験方法

供試材料として九州各県のほか、高知、徳島、高根、京都の各府県から収集した35在来種・2品種を用い、5、6、8、9月の各月に播種した。調査は毎日(5月播きは隔日)第1花が開花した個体を計数しながら抜き取り、全個体が開花するまで行った。調査個体数は1区40~80個体の2反復とした。

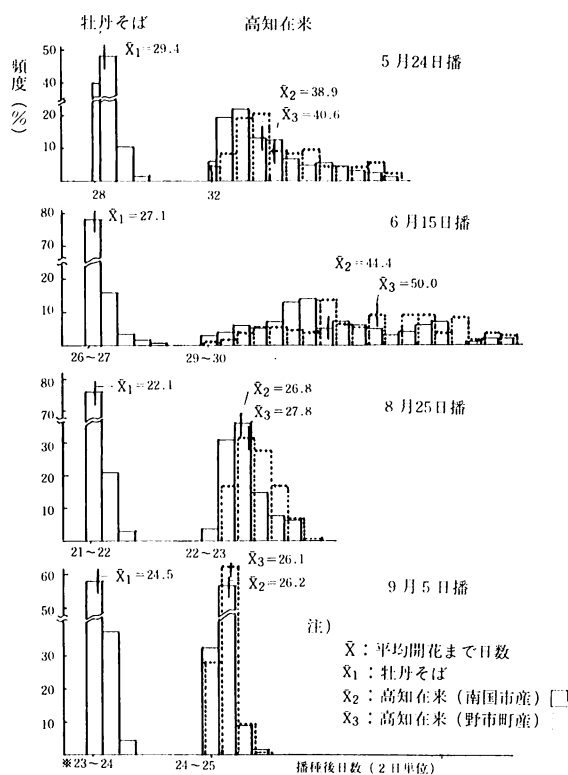
2. 試験結果および考察

1) 平均開花まで日数では、収集した材料の中の最早生種は牡丹そば(北海道十勝産)、最晩生種は高知在来(同県野市町産)であった。両品種の播種期に対する開花特性を第1図に示した。開花まで日数は牡丹そばでは5月播きが最も長く、6月播き、8月播きと順次短くなったが、9月播きは8月播きより長くなった。一方、高知在来は6月播きが最も長く、9月播きが最も短かった。開花まで日数とその個体変異の播種期による変動は高知在来がいちじるしく大であったが、全供試材料を概観した場合、晩生種ほど変動性が拡大する傾向であった。この主因は日長反応の差異によるものと推察された。

開花まで日数の6月播きと8月播きの相関は $r = 0.939$ 、8月播きと9月播きでは $r = 0.679$ で後者が低かった。9月播きでは、8月播きに比し低温化により開花まで日数が長くなるものと、逆に短日化により短くなるものとで順位が乱れるためであるが、6月播きと8月播きとの間でも若干の変動がみられた。

2) 暖地ソバの分類規準についてはなお検討が必要であるが、本報では実際の播種期である8月下旬における開

花まで日数により、収集在来種の開花の早晩性を区分し第1表に示した。開花の早晩性と成熟期の早晩性とは必ずしも一致せず、信濃1号の登熟性の良さが目立った。また地理的分布の特徴は、早、中生種は各地にみられその分布は広い地域にわたるが、晩生種は太平洋、玄海灘等の海に面する地域であった。なお、第1図の高知在来のように、産地による分化もみられた。



第1図 個体の播種後開花まで日数の頻度分布

注) 第23~24は播種後23および24日であることを示す

第1表 8月下旬播きにおける収集在来種の開花および熟期の早晩性

開花まで日数	10月26日までに成熟	~10月31日までに成熟	11月1日以降に成熟
23.1~24.0 ^(注)	牡丹そば(北), 祖谷山(徳), 立川在来(高), 五ヶ瀬(宮)	出水(鹿), 有明(鹿), 山城(徳), 三好(徳)	
24.1~24.5	鹿原(鹿), 信濃1号(長野), 高千穂(宮)	財部(鹿)	
24.6~25.5	山田(宮), 北山在来(佐)	合志(熊), 丹後・弥栄(京), 額姓(鹿), 諸塚(宮), 仁多(島), 水上(熊)	日南(宮), 宮崎在来(宮), 日田(大), 対島・土県(長), 東郷(宮)
25.6~		国東(大), 高森(熊)	諫早(長), 串間(宮), みやざきおつぶ(宮大), 栗野(鹿), 福岡在来(甘木), 松浦在来(長), 蒲江(大), 串間(宮農), 高知在来(南国), 高知在来(野市)

注) 1. 開花まで日数は1982年, 1983年の2ヵ年, 成熟期は1982年試験成績による

2. 在来種は収集した市町村名で示し, 県名および特定地名のものにのみ「在来」を付した。()内は府県名の頭文字または産地を示す。